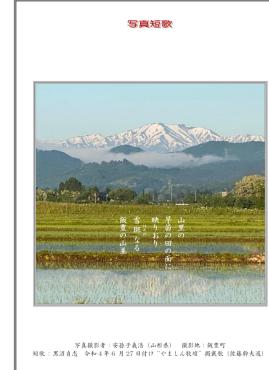


短歌		平成26年3月～平成31年4月	令和1年5月～
	掲載短歌	H30年4月：御堂へと続く参道雪積みて 鳥居を前に佇み祈る（＊）：井上菅子選 H30年4月：一輪の流れ着きたる雪椿 堪えぬきし冬を緋に秘めており（＊）：大滝 保選	R4年6月：山里の早苗の田の面に映りおる 雪斑なる飯豊の山並み（＊＊）：佐藤幹夫選 R4年8月：朽ちてなお青空割きて凜と立つ 白骨木は樹林の中に（＊）：大滝 保選（筆頭三席） 選評 「白骨木」とは樹皮が剥がれて真っ白になった巨大な枯れ木。枯れてもなお威厳と風格を生きた樹林の中で誇示している。上の句に勢いがある。
共同制作の写真短歌（＊）& 写真短歌（＊＊）	* * *他人の写真に自身の短歌 * * *写真も短歌も自身の作品	 写真撮影地：山形市若狭石行寺 短歌：平成30年4月10日付「やましん歌壇」鶴義歌（井上菅子選）  写真撮影地：山形県門田大平地氷雪地 短歌：平成30年1月10日付「やましん歌壇」鶴義歌（大滝 保選）	 写真撮影地：安孫子島（山形県） 短歌：令和4年6月27日付「やましん歌壇」鶴義歌（佐藤幹夫）  写真撮影地：宮城赤南蔵王 短歌：令和4年8月22日付「やましん歌壇」鶴義歌（大滝 保選）
作品	短歌	下記の写真短歌の短歌を含めて86首	下記の写真短歌の短歌を含めて110首（令和7年10月まで）
	写真短歌	38作品（自身の作品：37+共同制作：1）	77作品（自身の作品：51+共同制作：26）